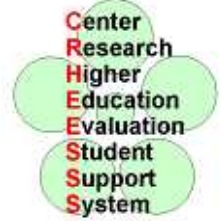


# 週刊センターニュース No.226



第226号(2008年9月25日)毎週月曜日発行  
発行: 金沢大学 大学教育開発・支援センター  
URL: [http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou\\_rche/index.htm](http://www.kanazawa-u.ac.jp/faculty/daikyou_rche/index.htm)

## 第200回共同学習会のご案内

日時: 9月30日(火)13時30分~15時30分

通常の曜日・時間と異なりますので、ご注意下さいますようお願い致します

会場: 角間キャンパス総合教育1号館2階大会議室

発表者: 坂詰貴史 氏(芝中学校・高等学校数学科教諭、OA委員会委員長、進学係)

テーマ: 「理系のAO入試について」

概要: 大学入学試験としてのAO入試がようやく定着しつつあります。その中で後期試験の代わりにAO入試を導入する大学や、反対にAO入試を廃止する国公立大学が現れています。このような状況の中において残念なことに、高等学校の教員や生徒に中にこの入試制度を誤解している場合が多く見受けられます。今回の報告ではまず高等学校における現状を報告いたします。続いて全国を廻る高等学校の教員の立場から他大学の事例報告をいたします。最後に以上のことを踏まえて、金沢大学がもつ性格ゆえに、直面するであろう問題や、検討すべき論点や方策について提言した後、参加者のみなさまと共に議論したいと思います。最終的にはよりよい理系のAO入試の実現に向けたヒントが得られることを期待しています。

## 第49回大学教員セミナー「学士力を考える」参加報告

前号でも、2008年3月公表の中教審大学分科会制度・教育部会「学士課程教育の構築に向けて(審議のまとめ)」の内容に関わり、キーワードである「学士課程」「アウトカム評価」についての解説がなされているが、歴史ある財団法人大学セミナーハウスが主催した本セミナー(2008年9月22-23日開催)の今年のテーマも奇しくも「学士力」であった。基調講演および発題者は、審議のまとめの作成に中心的に関わった専門委員ばかりで、黒田壽二氏(金沢工大総長)、鈴木敏之氏(前文科省高等教育局、現東京大本部総括長)、安岡高志氏(立命館大教育開発推進機構教授)、小杉礼子氏(労働政策研究・研究機構総括研究員)の4氏が直接提言の読み方や、それを受けて実際にどのように対応すべきかについて語るものとなった。

このうち鈴木氏は、提言のポイントが「三つの方針」(出口・中身・入口) 環境整備(FD/SD、質保証システム) 取組みの主体としての「国」「大学」「大学団体等」、の三つにあるということを改めて確認した上で、「学士力」定義の意義が、学位の品質保証はもちろんのこと、大学・企業がそれぞれの立場で「学習成果」を明確化させる呼び水とすることで、その間のミスマッチを少なくすること、

にあると指摘する。また答申内容の単なる引き写しでなく、参考指針として大学内で大いに議論し、組織内の認識共通の下に危機意識と覚悟を持って主体的に意味ある大学教育改革の推進を期するためであると述べた（7月1日に閣議決定された「教育振興基本計画」にも、今後5年間に取り組むべき施策事項として大学の实效ある取組みへの支援が盛り込まれている）。

安岡氏は上記の三つの方針のうち教育内容・方法、とくに単位の実質化の方法に話しの重点をおいていた。日本の大学生が勉強しないのではなく、日本の大学が自主的に学生を勉強させることができないシステムであるという認識した上で（シラバスやGPA制度だけ導入しても、それを有効にする仕組みを入れておかないと学生は勉強しない）、世界水準の学修時間を確保するための方法を、次のように例示している。

#### ・PDCAサイクルの確立

大学組織の発展は、目的を達成するための手段である自己点検・評価のあり方、つまりPDCAサイクルに依存する。実際に機能していると考えられる大学は少なく、十分に理解されていないのが実状とのこと

#### ・目標・ビジョンの構築

単位充実による問題発見・解決型の人材育成（達成目標設定） 行動目標としての単位の充実（共通認識の決定） 目標達成の測定方法：学生アンケートでの能力向上程度と学習時間についての調査（評価指標の決定） 基準の状態の決定

ここで重要な条件は、組織がよくなるビジョンが描けているか、全構成員が目標達成の一翼を担えるか、日常の努力の積み重ねで達成できるものか、さらに達成目標に対して、教員も学生も関わっているというような環境を作ることにあるという。

#### ・PDCAサイクルの活性化のための整備

必要条件として、1) 結果を組織が評価し良い（教育）結果に対しては褒賞を与えること 2) 更なる教育改善の提案を組織が受け入れる体制を整えること 3) 組織評価を基本とすること

#### ・達成目標に対する共通認識の醸造と工夫を考えていくためのFD・SDの実施

学内において様々な調査が実施されているが、それらの結果を踏まえて、前向きに、学生に学習動機を生ませる仕組みをどうすれば作っていけるのか、上記の提案も参考にしつつ全構成員が考えていく必要がある。（文責 評価システム研究部門 渡辺達雄）

### 後期ランチョンセミナーについて～センターからのお願い～

間もなく後期の授業が始まります。本センターが主催していますランチョンセミナーは、後期は随時開催となりますが、サークルなどの課外活動団体の皆様が活動成果を発表していただくだけでなく、各学類のゼミなどにおける日頃の学習成果・研究成果を発表する場としてももちろん、1年生を中心にミニレクチャーを希望される場合にも活用することができます。随時募集をしておりますので、ご連絡いただければ幸いです。[info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp](mailto:info-rche@ge.kanazawa-u.ac.jp) または、076-264-5793（担当：渡辺）